

---

## 巻頭言

放射光科学研究施設 施設長 村上 洋一

---

フォトンファクトリー（PF）は、1983年に大学共同利用を開始して以来、33年間にわたって国内外の放射光利用研究を支え続けて来ました。この10年間、PFの利用者は年間3000人（そのうち海外および企業研究者はそれぞれ8%程度）を超え、登録論文数も年間600報に達しています。その研究分野は、物理学・化学・生物学・地球惑星科学などの基礎科学分野から、材料科学・エネルギー科学・環境科学などの応用科学分野、さらには産業利用分野まで広がっています。このような研究活動を通して、学术界や産業界へ広く人材を輩出しており、PFを利用した博士・修士論文の登録数は累計で2,600報に達しています。

一方、この30年間で社会は大きく変容し、大学や大学共同利用機関を取り巻く環境も劇的に変化してきました。国立大学改革により、国立大学法人のミッション再定義が進む中で、大学共同利用機関のあり方も鋭く問われています。PFを利用した研究活動も、これまでの「大学共同利用」に加えて、産学連携・地域連携を通じた利用研究へと幅が広がっています。このような中、PFは将来の研究・教育ニーズを把握・分析して、放射光研究施設のあるべき姿を模索し、「新しい大学共同利用」体制を構築していきたいと考えています。また、PFの将来計画に関しても検討が進んでいます。日本の放射光科学のグランドデザインを考慮の上、PF将来計画の実現に向けて最大限の努力をしていく所存です。

これまでPFの成果は、PF Activity Reportとして英文での情報発信を行ってきましたが、今年度より国内の幅広いステークホルダーの方々に我々の活動を和文で分かり易くお伝えすることが重要であると考え、このPF年報を出版致します。今回の年報を踏まえて、今後は内容をさらにブラッシュアップする予定です。どうぞ忌憚のないご意見、ご批判をいただければ有り難いと存じます。